

9月14日 いろんな「ミニ」

8時30分に起きてセンターに行って朝ごはんを井上と浅山とヴィローさんというバンジャムルンのガイドの人と食べた。9時くらいにチャイワン先生が来て、朝食を食べながらバンジャムルンがどのようにしてきたかの簡単な概要を話してくれた。**Ban-Jum-Rung**の**Ban**は「村」の意味で、**Jum-Rung**は「低地」の意味らしい。バンジャムルンは今でこそ研修事業で講演会を開いたりしているが、講演ができるのはバンジャムルンの住民が失敗にくじけず工夫しながら20年間続けてきた努力と培ってきた「知識」が有るからこそだと強調していた。培われてきた「知識」は薄っぺらいものではなく、経験が基礎となって支えているから研修事業ができるのだという。経験なしの知識の伝達は結局リアルじゃないのだろう。11時ごろまでバンジャムルンの話をしてもらった。その後、怒田のムービーにいくつか補正をくわえて完成させたら、たべたばかりな気もするが昼飯の時間になった。昼飯を食べてからはセンターの目の前にある小さな売店でおかしを買った。雨でセンターに戻れなかったのものでそこで20分くらいまったりしていた。

すこし散歩してからセンターに帰ると、バスでバンジャムルン観光に行くことになった。ゴムの木の畑、田んぼ、パイナップル畑、ロンガン、仏陀の足の有る寺などを見て回った。バスの中ではもらったロンガンをひたすら食べていた。タマサートの学生にとってバンジャムルンは初めて来るところでありはしゃいでいた。バスの中でポーズを取って写真を撮ったり、いたるところで写真を撮っている人もいた。出身が都会の人もいるようなので、おなじ「タイ人」でもバンジャムルンのような景色は珍しいのだろう。

夕飯を食べてから、タマサートの学生は作業に戻った。その横で僕が日記を書いていると、**paul**という学生が日記の内容を教えてくれと言ってきた。いくらか日記を英訳して読んでいたが、飽きてきて、サン・プラ・プーム、サン・ジャオ、サン・ペン・タについての質問を僕がした。そこから、サン・プラ・プーム、サン・ジャオ、サン・ペン・タのタマサート学生による説明とネット検索が始まった。このサン・ほにやららは、霊の住む小さな



お家である。

まず **paul** は友達の名前 **pang** を呼び、**pang** と共に **eve** と **aor** がやってきていろいろ説明してくれた。その中でブディスト・ホーリー・デイという単語が出てきた。サン・プラ・プーム

に祈るのはどんな時かと paul に聞いたときに paul のお父さんはブッディスト・ホーリー・デイに祈ると言ったからだ。僕は初め、「ホーリー・デイ」ではなく「ホリデイ」と聞き取り、休日だと思った。だが paul にその日は休日かと尋ねると違うという。そこで横から見ていた pang が、「ホーリー・デイ」であることを教えてくれた。この「ブッディスト・ホーリー・デイ」は月に4回ほど、月が満ちる時に有るらしい。「ホーリー・デイ」と「ホリデイ」なるほど面白い聞きまづがいである。しかし、実際 holiday の語源は holy+day などで響きが同じなのは当然なのだ。おそらくキリスト教の安息日=holy-day の意味から休日=holiday になったのだろう。ちなみに、このブッディスト・ホーリー・デイには、タイにあるサムイ島で Full-moon-party が開かれるらしく、パーティ参加者は朝まで騒いで、太陽が出るころには寝るそうだ。また、このサン・ほにやららシリーズの話の中で、タイの招き猫ならぬ「招き女」や、大切に面倒をみるといいことが有るが無下に扱うと不幸をもたらす子どもの像などの話も出てとても勉強になった。・・・結局、サン・ほにやららシリーズはどんなものだったかという、サン・プラ・プームは家の庭などに置くもので、敷地が無いと作れない。家に幸福を招き災いから守ってくれるよう、先祖の良い霊に周期的にお祈りをする。悪い霊にはお祈りしない。Paul のお父さんなどは月に4回のブッディスト・ホーリー・デイの日に、信心深いおばあちゃんなどは毎日お祈りするそうだ。次に、サン・ジャオは中国人のあらゆる良い霊にお祈りするそうだ。サン・ジャオの場合はその霊のなかには神も含まれていて、三国志に出てくる関羽なども一緒に崇めるらしい。三つ目のサン・ペン・タは、霊にとっての一時的な住まいであって、サン・プラ・プームなどのように常に霊がいる場所としては捉えられていないそうだ。すべての良い霊ではなく、そのサン・ペン・タがある地域をさまよう霊を祭っているらしい。Wandering spirit と言っていた。これらのサン・ほにやららはインドからの影響を受けたタイの土着信仰らしく、仏教ではないそうだ。また、このサン・ほにやららの話の中で、僕が勘違いしていたものが有った。スラムや街中でときおり見かける神棚のようなものが有った。それは僕の考え（勘違い）では、サン・プラ・プームを置けないから代わりに霊を祭る場所なのだろうと思っていた。しかし実際はそうではなく、この神棚のようなものはヒン・プラと呼ばれ、仏陀の絵をそこに飾ってお祈りして祭るものだったのだ。



(←神棚のようなもの)

音楽の話、日本の神道と戦争の話、朝鮮との関係、タイの教育システムの話、タイの生徒

と日本の生徒のパワポを使ったプレゼンカの話、英語力の話、日本の自殺者数の話、などいろいろなことを paul , pang , eve , nutter ,ants ,aor たちと話した。僕らがそんな話をしている間に、本来のマップ作りと模型作りの作業は着々と進んでおり、夜の 3 時ごろにそれらが完成した。バンジャムルンには犬がたくさんいて咬みつかれそうに思うのだが、10 何人で歩けば、ひたすら吠えている犬もさすがに咬みつきにはこない。みんなで行けば咬まれない！その後ささっとお風呂に入って寝た。

(↓コミュニティセンターの模型作りに励むタマサートの学生)

